

たんそびょう 炭疽病

病原菌名 *Glomerella cingulata* など

発生条件

発病適温は28℃前後で高温の時期に特に発生しやすい。被害残渣や保菌株から感染する。病斑上に形成された胞子が、雨水や散水などの水滴により飛散し、ほ場に蔓延する。品種間で発病に差があり、まりひめは発病し易く、さちのか、紅ほっぺはやや発病し易い。かおりのは発病しにくい。



苗の発病

ランナーや葉柄では、はじめ黒色で紡錘形の浅く陥没した病斑を形成し、拡大する。



葉の病斑

好適条件では葉に小斑点が形成される。



発病株のクラウン

外側より内部に進行する黒赤色の病斑がみられ、地上部は萎凋する。